

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(1階ユニット)
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1
自己評価作成日	令和5年9月1日
評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&ikvssvcd=2271100923-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長期間にわたり、愛の家で働いているスタッフが複数おり、明るい雰囲気の中で笑いの絶えない空間が作れるようにしています。ご利用者様・ご家族様とも長期間関わらせていただいているので、信頼関係の中で運営が出来ていると思います。
自立支援ケアを推奨し、1日水分1500ccを目指し、ご利用者様の好みの味や時間・量を考慮しながら水分補給ができるようにしています。イライラ・うとうと・ボーっとする・落ち着かないという症状が改善するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域で見守る認知症ケア」を推進する地域包括支援センターの尽力により、運営推進会議においても独居や老老介護世帯の情報共有や課題意識が高く、事業所も相談窓口としての門戸を広げています。「浴槽から出られなくなった、助けてください」のSOSに駆けつけたり、「介護申請をしたいがどうしたら～」といった問い合わせが寄せられ、開設以来18年の歳月を地域とともに歩んできた軌跡は「頼りになる」としての存在と信頼になって根づいています。家族アンケートにはその質の維持に苦言も辞さない気概が感じられ、認知症ケアに誠実に向きあう事業所の応援団となって後押ししています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念においては、毎年作成している。 出勤時には、会社の理念と一緒に一日を理念と照らし合わせてどのように業務をするか、記載している。	職員は出勤後、事業所理念に基づいた行動目標をホワイトボードに記し、気持ちを切り替えて業務に臨んでいます。業務終了時には申し送りとともに一日を省みて、ぶれのないケアを展開しており、今期の事業所理念「ネクストチャレンジ」がスタートしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーやコンビニなどを初め、ご利用者様の希望が聞かれる際には、スタッフと一緒に出かけるようにしている。散歩に出かけた際に地域の方々会った際には、挨拶や会話をしている。	近隣への買い物をはじめ、手品や手話といったボランティアサークルにも声をかけ、コロナ禍以前の関係性を再構築し、地域交流が始動しています。また、介護の仕事に興味をもつ高校生ボランティアや専門学校実習生を受け入れ、その魅力を発信しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催は出来ていないが、会議の前には意見を伺い、議事録に質問に対する返答をしている。	5類移行後も新型コロナウイルスの勢いは衰えず、感染者数の推定値を見ながら書面開催を継続しています。開催前にメンバーに資料を送って意見聴取し、その回答を載せた議事録を届けることで双方向のやりとりが叶い、事業所運営への認識が深まっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より、介護相談員の受け入れを実施し、情報の共有をしている。市役所の担当者とも、書類の提出の際などに関わりを持っている。	近隣との交流もなく身内もない案件では、入居後も地域包括支援センター、社会福祉課と連携した支援をおこなっています。介護相談員訪問の際は、感染予防対策のためユニットでの聞き取りは控え、玄関先で職員が現状を報告し、透明性を担保しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、全職員に対し、身体拘束について、毎月資料や動画を使用して研修を実施しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針に基づいた委員会、研修はつつがなく執りおこなわれ、例外三原則に該当するケースもありません。委員会では職員が記入するチェックシートから抽出した課題を協議し「ケアの優先順位を考える」「お互いがお互いを守るように声をかけあう」と改善策を示して取組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、全職員に対し、高齢者虐待防止関連について学ぶ機会を設け、会社が作成した資料や動画において基本的知識を定期的に学び、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議等において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、ご利用者やご家族様等に不安や疑問点を尋ねている。不明点についても、十分な説明をし、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを実施して、意見を伺うようにしている。アンケートにおいて頂いた意見においては、社内にて共有し、サービスの向上を目指している。	アンケート結果は職員に周知され改善計画で是正しています。本件に係るアンケートには職員の接遇に関する苦言や、より詳しく生活状況を知るための事業所通信への要望など、質の向上へとつながる意見が挙がっており、運営姿勢への日頃の理解が伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員アンケートを実施し、全職員が感じている意見を会社全体に共有出来るようにしている。2週間に1回は職員との面談を実施し、日頃の悩みや不安を聞き出している。	ユニットごとのフロア会議やリーダーを招集したリーダー会議を毎月開き、出席者全員が発言できるよう、予め議題を伝えていきます。また、ユニット予算を割り当て、おやつ作りや装飾品の材料といったレクリエーション費として職員の発案が活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールにてスタッフの評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題においても、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に地域の同業者の事業所を回り、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。包括支援センター主催のイベントにも参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、場合によっては、居室や面談室において1対1で話せる時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な限りに会話をする機会を作り、不安や困っていることに耳を傾けながらタイムリーに返答出来るようにし、信頼していたできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを聞き、計画書の作成をしている。職員間においても、情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中において、ご利用者様自身が望んでいることを聞き出し、やりたいことを実現出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様とも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を継続できるように、馴染みの方の面会を受け入れたり、馴染みの場所へ行けるようにしている。	入室時のマスク着用、手指消毒等、感染予防対策の徹底をお願いし、面会場所は居室と定めています。対面でゆっくり会える喜びは大きく、毎週通う家族もあり、馴染みの美容院でパーマをかける人や、お彼岸には家族と墓参りに出かける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみやホーム内での役割を共有し、フロア内で孤立をしないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了をした後においても、関係性を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち、希望や意向を把握している。	すでに自宅が無くなってしまっているが「家に帰りたい」と言ったり、現実には無理とわかっていても「歩けるようになりたい」と訴える、その気持ちに寄り添ったアプローチや、言葉の裏に隠された本心が汲み取れる視点を大切にしたいと管理者から伝えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送り内で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。	事前に本人・家族意見を聴取し、ユニット会議でサービス担当者会議の時間を設け、職員意見を集約してモニタリングと課題の検討をおこなっています。記録は電子化され実施の有無も明確で、介護計画に沿った役割や状態変化、本人の言動が詳しく記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力している。日々の様子をスタッフ間で共有し、よりよい介護計画を作成できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご家族様の想いを確認し、多角的な観点でサービスの多機能化に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	担当地域包括支援センター主催の地域マーケットに参加させていただいた。近隣の洋服屋より、バザーのお誘いを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を聞き、希望の医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医を継続する利用者が5名いて、家族に受診をお願いしていますが、状況に応じてユニット職員が援助しています。月2回の協力医による訪問診療では、利用者の状態を把握しているユニットリーダーまたは管理者が立ち会い、受診報告書に結果を記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを提供し、情報の共有に努めている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化があった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来ることの確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるようにご利用者様の支援に努めている。	話し合いをもって一度決めた方針でも、揺れ動く気持ちに沿いながら、本人や家族の要望に応じてより良い選択ができるように支援しています。スムーズな医療連携と先輩職員からの助言で、看取りの経験が少ない職員の不安を緩和し、今年度も一名を見送っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員は定期的に目を通すようにしている。先日は、緊急蘇生法の研修を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定での実施。地域の方々不参加の状態が続いている。課題であると認識している。	訓練は、新人職員が優先的に体験できるよう計画を立て、3階から階下への搬送訓練もおこなっていますが、限られた人員での円滑な避難として、津波は垂直避難、火災時は火元から一時待避場所への水平移動としています。備蓄は法人管理で5日分を用意しています。	策定された事業継続計画の周知と運用が進められることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように声掛けや対応している。	管理者が毎朝各フロアをラウンドし、目についたことはその場で注意しています。身体拘束廃止委員会で議題となる「口調が強くなってしまう」「座っている利用者に立った状態で会話をする」など、意図せず取ってしまう態度を改め、互いに指摘し合える雰囲気が大切としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中から、ご本人様の思いや希望をくみ取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活ペースを尊重し、どのようにホームでの生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話や音楽など、雰囲気作りに努めている。	調理専任職員が副菜を作り、ユニットでご飯と汁物を用意しています。月に一度、ユニット調理の日を設け、シラス丼やネギトロ丼、時にはカップラーメンが登場する日もあり、利用者のリクエストに応えています。夏野菜の糠漬けや干し柿作りに精を出す姿もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を1人1500ccに設定し、ご利用者様が好みの飲み物を提供できるようにしている。食事は、管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄つパターンの把握に努め、その都度の排泄つ介助を実施している。	一人ひとりに合った声かけや誘導で快適な排泄がサポートされ、立位に不安があっても職員2人による介助で、日中はトイレでの排泄が叶っています。水分摂取を増やし、日中の活動を充実させたことで排泄リズムが整い、夜間ゆっくり休めるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、下剤の使用に頼らない便秘予防を実施している。水分量・栄養・運動において、ご利用者それぞれに適した便秘の介助を実施するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、かくご入居者様に合わせた入浴方法が出来るようにしている。	主に午前中を活動の時間、午後をリラックスタイムとして入浴にあてています。湯は一人ずつ替え、入浴剤を用意していますが滑りやすくなるリスクも併せて考慮しています。週2回を目安とし、拒否がある人は無理強いせず曜日を替えて声をかけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないような時には、夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って、服薬事故が起きないように介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごりよう者様一人一人が出来ることをスタッフが把握し、役割を持てるように声掛けをしている。役割を継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーやコンビニ、希望によっては、ドライブに出かけている。	散歩は季節に応じた時間帯で、個人のペースや歩行力に合わせて出かけています。5類移行後は日用品やおやつ、洋服を買いに近隣の店舗まで出向き、ドライブでは海が見える牛臥山公園まで足を伸ばしたり、住んでいた地域を回って知人に会い、立ち話をする日もあります。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に貴重品においてはトラブル防止の観点から、NGとさせていただいているが、状況によってご家族様の了解を得てから所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合や、ご家族様からの取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各部屋に設置したり、温度計や湿度計を確認しながら、快適な空間での生活が送れるように支援している。	リビングには職員が持ち寄る切り花を活け、十五夜にはススキを飾って月を愛でる夜もあります。季節ごとの壁面制作とともに、活動の軌跡となる写真を廊下の壁いっぱいに掲示し、3ヶ月毎に貼り替えています。清掃や消毒はシフトごとに定め、感染予防対策には余念がありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、ちょっとした空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物や親しみのあるものを持ってきていただけるように、ご家族様をお願いをしている。	寝心地のよいベッドや家族の写真、アルバム、位牌や仏壇の持ち込みがあり、化粧台に向かって毎日お化粧をする人もいます。食事とレク以外は居室で、趣味の紙工作に専念する人もいますが、万が一の場合に備え、使い終わったハサミやカッターはフロアで預かっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、ポジショニングに注意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(2階ユニット)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&ikvssvcd=2271100923-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長期間にわたり、愛の家で働いているスタッフが複数おり、明るい雰囲気の中で笑いの絶えない空間が作れるようにしています。ご利用者様・ご家族様とも長期間関わらせていただいているので、信頼関係の中で運営が出来ていると思います。
自立支援ケアを推奨し、1日水分1500ccを目指し、ご利用者様の好みの味や時間・量を考慮しながら水分補給ができるようにしています。イライラ・うとうと・ボーっとする・落ち着かないという症状が改善するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域で見守る認知症ケア」を推進する地域包括支援センターの尽力により、運営推進会議においても独居や老老介護世帯の情報共有や課題意識が高く、事業所も相談窓口としての門戸を広げています。「浴槽から出られなくなった、助けてください」のSOSに駆けつけたり、「介護申請をしたいがどうしたら～」といった問い合わせが寄せられ、開設以来18年の歳月を地域とともに歩んできた軌跡は「頼りになる場所」としての存在と信頼になって根づいています。家族アンケートにはその質の維持に苦言も辞さない気概が感じられ、認知症ケアに誠実に向きあう事業所の応援団となって後押ししています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念においては、毎年作成している。 出勤時には、会社の理念と一緒に一日を理念と照らし合わせてどのように業務をするか、記載している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーやコンビニなどを初め、ご利用者様の希望が聞かれる際には、スタッフと一緒に出かけるようにしている。散歩に出かけた際に地域の方々と会った際には、挨拶や会話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催は出来ていないが、会議の前には意見を伺い、議事録に質問に対する返答をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より、介護相談員の受け入れを実施し、情報の共有をしている。市役所の担当者とも、書類の提出の際などに関わりを持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、全職員に対し、身体拘束について、毎月資料や動画を使用して研修を実施しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、全職員に対し、高齢者虐待防止関連について学ぶ機会を設け、会社が作成した資料や動画において基本的知識を定期的に学び、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議等において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、ご利用者やご家族様等に不安や疑問点を尋ねている。不明点についても、十分な説明をし、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを実施して、意見を伺うようにしている。アンケートにおいて頂いた意見においては、社内にて共有し、サービスの向上を目指している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員アンケートを実施し、全職員が感じている意見を会社全体に共有出来るようにしている。2週間に1回は職員との面談を実施し、日頃の悩みや不安を聞き出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールにてスタッフの評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題においても、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に地域の同業者の事業所を回り、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用様が話しやすい環境づくりに努め、場合によっては、居室や面談室において1対1で話せる時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な限りに会話をする機会を作り、不安や困っていることに耳を傾けながらタイムリーに返答出来るようにし、信頼していたできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを聞き、計画書の作成をしている。職員間においても、情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中において、ご利用者様自身が望んでいることを聞き出し、やりたいことを実現出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様とも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を継続できるように、馴染みの方の面会を受け入れたり、馴染みの場所へ行けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみやホーム内での役割を共有し、フロア内で孤立をしないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了をした後においても、関係性を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち、希望や意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送り内で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力している。日々の様子をスタッフ間で共有し、よりよい介護計画を作成できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご家族様の想いを確認し、多角的な観点でサービスの多機能化に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	担当地域包括支援センター主催の地域マーケットに参加させていただいた。近隣の洋服屋より、バザーのお誘いを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を聞き、希望の医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを提供し、情報の共有に努めている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化があった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来ることの確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるようにご利用者様の支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員は定期的に目を通すようにしている。先日は、緊急蘇生法の研修を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定での実施。地域の方々不参加の状態が続いている。課題であると認識している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように声掛けや対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中から、ご本人様の思いや希望をくみ取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活ペースを尊重し、どのようにホームでの生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話や音楽など、雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を1人1500ccに設定し、ご利用者様が好みの飲み物を提供できるようにしている。食事は、管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄つパターンの把握に努め、その都度の排泄つ介助を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、下剤の使用に頼らない便秘予防を実施している。水分量・栄養・運動において、ご利用者それぞれに適した便秘の介助を実施するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、かくご入居者様に合わせた入浴方法が出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないような時には、夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って、服薬事故が起きないように介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人が出来ることをスタッフが把握し、役割を持てるように声掛けをしている。役割を継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーやコンビニ、希望によっては、ドライブに出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に貴重品においてはトラブル防止の観点から、NGとさせていただいているが、状況によってご家族様の了解を得てから所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合や、ご家族様からの取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各部屋に設置したり、温度計や湿度計を確認しながら、快適な空間での生活が送れるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、ちょっとした空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物や親しみのあるものを持ってきていただけるように、ご家族様にお願いをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、ポジショニングに注意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(3階ユニット)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&ikvssvcd=2271100923-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長期間にわたり、愛の家で働いているスタッフが複数おり、明るい雰囲気の中で笑いの絶えない空間が作れるようにしています。ご利用者様・ご家族様とも長期間関わらせていただいているので、信頼関係の中で運営が出来ていると思います。

自立支援ケアを推奨し、1日水分1500ccを目指し、ご利用者様の好みの味や時間・量を考慮しながら水分補給ができるようにしています。イライラ・うとうと・ボーっとする・落ち着かないという症状が改善するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域で見守る認知症ケア」を推進する地域包括支援センターの尽力により、運営推進会議においても独居や老老介護世帯の情報共有や課題意識が高く、事業所も相談窓口としての門戸を広げています。「浴槽から出られなくなった、助けてください」のSOSに駆けつけたり、「介護申請をしたいがどうしたら～」といった問い合わせが寄せられ、開設以来18年の歳月を地域とともに歩んできた軌跡は「頼りになる場所」としての存在と信頼になって根づいています。家族アンケートにはその質の維持に苦言も辞さない気概が感じられ、認知症ケアに誠実に向きあう事業所の応援団となって後押ししています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念においては、毎年作成している。 出勤時には、会社の理念と一緒に一日を理念と照らし合わせてどのように業務をするか、記載している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーやコンビニなどを初め、ご利用者様の希望が聞かれる際には、スタッフと一緒に出かけるようにしている。散歩に出かけた際に地域の方々と会った際には、挨拶や会話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催は出来ていないが、会議の前には意見を伺い、議事録に質問に対する返答をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より、介護相談員の受け入れを実施し、情報の共有をしている。市役所の担当者とも、書類の提出の際などに関りを持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、全職員に対し、身体拘束について、毎月資料や動画を使用して研修を実施しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、全職員に対し、高齢者虐待防止関連について学ぶ機会を設け、会社が作成した資料や動画において基本的知識を定期的に学び、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議等において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、ご利用者やご家族様等に不安や疑問点を尋ねている。不明点についても、十分な説明をし、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを実施して、意見を伺うようにしている。アンケートにおいて頂いた意見においては、社内にて共有し、サービスの向上を目指している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員アンケートを実施し、全職員が感じている意見を会社全体に共有出来るようにしている。2週間に1回は職員との面談を実施し、日頃の悩みや不安を聞き出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールにてスタッフの評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題においても、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に地域の同業者の事業所を回り、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。包括支援センター主催のイベントにも参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、場合によっては、居室や面談室において1対1で話せる時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な限りに会話をする機会を作り、不安や困っていることに耳を傾けながらタイムリーに返答出来るようにし、信頼していたできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを聞き、計画書の作成をしている。職員間においても、情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中において、ご利用者様自身が望んでいることを聞き出し、やりたいことを実現出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様とも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を継続できるように、馴染みの方の面会を受け入れたり、馴染みの場所へ行けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみやホーム内での役割を共有し、フロア内で孤立をしないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了をした後においても、関係性を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち、希望や意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送り内で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力している。日々の様子をスタッフ間で共有し、よりよい介護計画を作成できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご家族様の想いを確認し、多角的な観点でサービスの多機能化に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	担当地域包括支援センター主催の地域マーケットに参加させていただいた。近隣の洋服屋より、バザーのお誘いを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を聞き、希望の医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを提供し、情報の共有に努めている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化があった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来ることの確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるようにご利用者様の支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員は定期的に目を通すようにしている。先日は、緊急蘇生法の研修を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定での実施。地域の方々不参加の状態が続いている。課題であると認識している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように声掛けや対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中から、ご本人様の思いや希望をくみ取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活ペースを尊重し、どのようにホームでの生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話など、雰囲気作りに努めている。食事に集中できない時には、テレビを消して、音楽を流している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を1人1500ccに設定し、ご利用者様が好みの飲み物を提供できるようにしている。食事は、管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄つパターンの把握に努め、その都度の排泄つ介助を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、下剤の使用に頼らない便秘予防を実施している。水分量・栄養・運動において、ご利用者それぞれに適した便秘の介助を実施するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、かくご入居者様に合わせた入浴方法が出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないような時には、夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って、服薬事故が起きないように介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人一人が出来ることをスタッフが把握し、役割を持てるように声掛けをしている。役割を継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーやコンビニ、希望によっては、ドライブに出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に貴重品においてはトラブル防止の観点から、NGとさせていただいているが、状況によってご家族様の了解を得てから所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合や、ご家族様からの取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各部屋に設置したり、温度計や湿度計を確認しながら、快適な空間での生活が送れるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、ちょっとした空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物や親しみのあるものを持ってきていただけるように、ご家族様にお願いをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、ポジショニングに注意している。		